「根源的人間」（根本現象Urphänomen）　　　　　令和４年９月18日

◎上田閑照先生［1926 - 2019年6/28］

『禅仏教　**根源的人間**』（岩波書店、同時代ライブラリー、1993年発行）

1973年8月の「あとがき」

本書では、「色即是空、空即是色」が自覚的に、ということは自覚覚他的に、活きて動き働き出した「根源的人間」ともいうべきあり方の解明に直接の関心が向けられた。禅の世界で作（はたら）く人間の一挙手一投足、一言半句は、或る根源から、われわれの自己に**根源への問を目覚ましめる**。（357頁）

本のカバーの冒頭

禅の世界の一挙手一投足、そこで発せられる一言半句は我々を根源への問に目覚めさせる。

そしてその問題が解けぬ**自分自身が実は問題の根本、根本問題なのである**。（101頁）

◎西田幾多郎

**プラトンのイデアは尚静的である**。**真のイデアは絶対現在の自己限定として自己自身を形成する形**と云うべきものでなければならない。

我々の自己は個物的なればなる程、真の自己であればある程、**絶対的な二者択一の立場に立つ**。**何処までも自己自身に従うべきか、絶対に自己を捨てて絶対に従うべきか**。前者は死に至るの途であり、後者は永遠の生に入る途である。我々の自己は**いつも、かかる永遠の生死の岐路に立っている**のである。かかる二者択一の立場は、所謂倫理的選択と同様のものではない。道徳的当為の立場ではない。我々の自己に最も根本的な、最も深い立場である。道徳的当為は却って此に基礎付けられるのである。かかる**立場を宗教的立場という**のである。**宗教的立場というのは、我々の自己が絶対者へ絶対的関係に於て立つことである**。

**◎ゲーテ「植物の螺旋的傾向について」（亡くなる前年に書いた論文）**

私は多年にわたり、自分の以前の見解にしたがって植物の世界をながめ、多くの特殊なことを普遍的なものへ結びつけることで満足していた。ところが、植物の螺旋的傾向に関する新しい観察により、私は改めて大きな刺激をうけることになった。それについて著名なマルティウス〔＊81〕が一八二七年にミュンヘンで、翌年ベルリンで講演を行ない、二回目のときに論旨をさらに明確にするためあるモデルを提示したからである。

**生命の根本法則としてのこの螺旋的傾向は、それゆえ、まず最初に種子からの発達にさいして現われてくるに違いない。**

**垂直傾向は、発芽の最初から表現される。 それによって植物は大地に根を下ろし、同時に自らを持ち上げる**。… **螺旋的影響**があることは否定できない。

**われわれが想定しなければならなかったのは、植物の中で普遍的な螺旋的傾向が支配していて、それにより、垂直努力と結合して、植物のあらゆる構造、いかなる形成もメタモルフォーゼの法則に従って遂行されるということである。それゆえ、二つの主要傾向、あるいはそう呼びたければ、それにより植物の生活が生長しつつ完成される二つの生きたシステムは、垂直システムと螺旋システムである。一つが他から切り離して考えられないのは、一つは他によってのみ生きて作用するからである。**

**一般的なことに戻り、最初にすぐ提起したことを想起しよう。垂直および螺旋システムは生きた植物において密接に結びついている。ここで前者はきわめて男性的、後者はきわめて女性的であることが判明することから、われわれは全植物が根から上へひそかに雌雄同体に結ばれていると考えることができる。その後、生長のさまざまな変化に伴って、両システムは明白な対立のうちに分裂し、対立しあいながら高次の意味でふたたび一致するのである。**

**ワイマール、1831年秋**

●以下、前回（9/4）の資料から

●エッカーマン著『ゲーテとの対話』（晩年のゲーテへのインタビュー集）

●1831年2月14日（中）

**モーツァルトのような出現は、つねに解きがたい奇蹟bleibt immer ein Wunderであるにちがいない**。

・1828年3月11日（下）

天才というのは、神や自然の前でも恥かしくない行為、まさにそれでこそ**影響力をもち永続性のある行為を生む生産力にほかならない**のだ。モーツァルトの全作品は、そうした種類のものだ。あの中には、世代から世代へと働きつづけ、早急には衰えたり尽き果てたりすることのない生産力があるのだよ。そのほかの偉大な作曲家や芸術家についても同じことがいえるよ。**フィディアス**やラファエロは、その後何世紀にもわたって影響を及ぼしたではないか！…**生産的な影響を与えつづけないような天才は存在しない**からだよ。

・●1831年6月20日（下）

モーツァルトがドン・ジョヴァンニを作曲した、などとどうして言えようか！　作曲する――まるで卵と小麦粉と砂糖をこねあわせてつくる一片のケーキかビスケットででもあるかのようだ！――それは、部分も全体も**ひとつの精神から一気に注ぎだされ、ひとつの生命の息吹につらぬかれた精神的な創造なのであって、製作者はけっして、試みをおこなったり、継ぎはぎをしたり、恣意的な処置をほどこしたりはしていない。彼の天才のデモーニッシュな精神が彼を支配し、彼はこの精神の命ずることを遂行するよりほかなかったのだ**。（渡辺健訳）

［このような人間わざを越えた作品、その生産的な影響力、デモーニッシュなもの、この別の言い方が根源現象］

・1829年2月18日（中）

**人の到達しうる最高のものは、驚嘆Erstaunenするということだよ**。もし**根源現象を見て驚嘆させられたら、それで満足するがいいんだ**。**それ以上のものは与えられない。またそれ以上探求すべきではない**。**ここに限界がある**んだ**hier ist die Grenze**。しかし人々は通例、根源現象を見ただけでは満足せず、まだ先を分かろうと考える。鏡を覗いてすぐに裏の方に何があるかと、返してみる子どものようなものだ。」（kindle、亀尾・上妻訳）

・1831年2/23（中）

**神は一切の生物を貫いている。そして人は、最高者たる神の部分を感じるほどまでに、神的なものを多分に持っているものだ**。（kindle、亀尾・上妻訳）

・1827年４月18日（下）

**美は根源現象だ**。

それ自身は現れないが、その反映は無数の雑多な創造的精神の発現の中に見られる。そして自然そのもののように多種多様だ。」（kindle、亀尾・上妻訳）

・1830年1/27（下）

螺旋状傾向という彼（フォン・マルティウス氏）の巧みな思いつきは、きわめて重要なことだよ。なお彼に望むことがあるとすれば、それは、**彼の発見した根源現象を大胆に断乎として押し進めること、あまりくどくどと証明したりせずに、一つの事実を法則だと言いきるだけの勇気Courageを持つことだね**。（山下肇訳）

彼の旋回的傾向の発見は、きわめて重大なものだ。なお彼に望むことがあるとすれば、彼が**発見した根本現象を断固として主張し、あまりくどくどと証明したりしないで、事実を法則として述べるだけの勇気を持つこと**だ。（kindle、亀尾・上妻訳）

・1829年2月13日（中）

神性Gottheitは根源現象の中に物理的あるいは論理的に現れる。

　神性は根源現象の背後に潜み、根源現象は神性から流れ出る。

**神性は生けるものの中に働いているが、死せるものの中にはない。生成し変化するものの中にあり、完成した凝固したものの中にはない**。それ故理性は、神々しいものに達するために、成長するもの生きている者を対象として、悟性は彼が利用しうる完成したもの凝固したものを対象としなければならない。（Kindle亀尾・上妻訳）

　訳者注：書簡でゲーテは「根源現象とは、その内部に多種多様なものが見られる根本現象である。人間が宇宙に触れるあらゆる感覚は困難であっても**天職を果たそうとすれば共に作用するはずのものだ**。」と書いている。

◎ゲーテ『ウィルヘルム・マイスターの遍歴時代』３巻18章「マカーリエの文庫から」

芸術は目で見たものをそのまま模倣するのではなく、自然がそれによって成り立ち、それに従って自らを律するあの理念［ロゴス、レゾン］に立ち返るのだと。（岩波文庫、山崎章甫訳）

さらにもろもろの芸術は多くのものを自己自身のうちから生み出し、他面、美を自己のうちにもっているがゆえに、完全さに欠けている場合にはそれを補う。（山崎章甫訳）

　こうしてフェイディアスは、感覚的に見たものは何も模倣しなかったけれども、ゼウスが私たちの目の前に現れたならばそう見えるであろうような像を感覚でとらえて神の像を作った。

**古代と向かい合い、それによって自己形成をするという意図を持って古代を真剣に見つめるならば、われわれは、はじめてほんとうの人間になる、という感覚を味わう**。

（別訳）**自己を形成するという意図をもって古代と真剣に向きあうとき、われわれは初めて本当に人間になるという感じを得られる。**

というのは、私たちが古代と向き合い、それによって自己を形成しようと真剣に考えるならば、私たちはその時はじめて本当に人間になれると感じられるからだ。（山崎章甫訳）

文学や美術の創作を解する感受性の持主は、古典芸術に接すると、きわめて快く精神的な自然状態に置かれるのを感じる。そして今日に至るまでなおホメロスの詩篇は、何千年にもわたる伝統が私たちに担わした重荷から、少なくとも一時は私たちを解放してくれる力をもっている。（山崎訳）

●『ヴィンケルマン』（芦津訳）

ひとたび芸術作品が産み出され、その理想的な現実とともに世に姿を見せるや、それは持続的な効果をもたらし、最高の効果を発揮する。なぜなら芸術作品とは全体の力から精神的に展開されるものであり、それゆえ**すべての卓越したもの、尊敬と愛に値するものを取り入れ**、**人間の形姿に魂を吹きこむことによって人間を人間以上に高め**、その生活および行為の円環を完結し、過去と未来とを包括する現在のために人間を神化するからである。

… es bringt die **höchste** hervor: denn indem es aus den gesamten Kräften sich geistig entwickelt, **so nimmt es alles Herrliche, Verehrungs- und Liebenswürdige in sich auf und erhebt, indem es die menschliche Gestalt beseelt, den Menschen über sich selbst, schließt seinen Lebens- und Tatenkreis ab und vergöttert ihn für die Gegenwart, in der das Vergangene und Künftige begriffen ist**.

私たちが古代人の叙述、報告、証言などから解明できるように、かつて**オリュンピアのユピテル**を眺めた人々は、このような感情に捉えられた。人間を神に高めるために、神が人間になったのである。彼らは至高の尊厳を目（ま）のあたりにし、**最高の美に胸を打たれた**。

**Von solchen Gefühlen wurden die ergriffen, die den Olympischen Jupiter erblickten**, …

**Der Gott war zum Menschen geworden, um den Menschen zum Gott zu erheben. Man erblickte die höchste Würde und ward für die höchste Schönheit begeistert**.

この意味において私たちは、「**この作品を見ずに死ぬのは不幸である」と心からの確信をもって語った**古代人たちを是認すべきであろう。…

In diesem Sinne kann man wohl jenen Alten **recht** geben, welche **mit völliger Überzeugung aussprachen: es sei ein Unglück, zu sterben, ohne dieses Werk gesehen zu haben**.

友情と美の二つの要求が同時に一つの対象において満たされるとき、人間の**幸福と感謝の念は、きわまるところを知らない**。そして人間は、**彼の所有物のすべてを、帰順と崇拝のささやかな印として捧げたいという気持ちになるであろう**。

**Finden nun beide Bedürfnisse der Freundschaft und der Schönheit zugleich an einem Gegenstande Nahrung, so scheint das Glück und die Dankbarkeit des Menschen über alle Grenzen hinauszusteigen, und alles, was er besitzt, mag er so gern als schwache Zeugnisse seiner Anhänglichkeit und seiner Verehrung hingeben**.

手本がほしかったら、絶えず古代ギリシャに帰らなければならない。その作品の中には常に美しい人間が描かれている。 (1827年1/31)

im Bedürfnis von etwas Musterhaftem müssen wir immer zu den alten Griechen zurückgehen, in deren Werken stets der schöne Mensch dargestellt ist.